



冬のボーナスカットを許さないぞ！シリーズ⑫

リニアを進めるなら満額回答せよ！

2020年度年末手当第2回団体交渉

本部は10月30日、2020年度年末手当第2回団体交渉を行いました。

本部は、「健全経営」について昨日の経営協議会で会社が言われた「社員にはしかるべき給与を支払う」ことは、年末手当も当然支払うということと訴えました。会社は、健全経営には変わりないとしつつも、明確な回答は避けました。

また、本部は「役員手当を10%カットしても、平均4,500万円の収入があるが、社員のボーナスが10%カットされると、特にローンを抱えた人は生活が苦しくなる」と、職場の社員の意見をぶつけました。会社は、「気持ちは分かるが厳しい」ということだけに留まりました。

多額な内部留保金について、本部は「切り崩して社員に還元すべきだ」と主張しましたが、会社は「社債、投資、コマーシャルペーパーなどの用途があり、自由に使えるものではない」と、社員のために使おうという気はありませんでした。

会社は、業績予想を80%まで回復することを見込んでいますが、本部が「その見込みなら満額回答は出せる」と主張すれば、「厳しい」と逃げました。その一方では、3.5ヶ月出せる体力があることは認めました。

2.9ヶ月の安定的支給ベースについて質問すると、会社は「安定的とは収入のことである。赤字だから安定的収入とは言えない」と、この間主張してきた見解を変えたのです。本部は「安定的支給ベースとは、字を読んで如く、支給ベースが安定的であることだ。社員100人中100人がそう理解している」と反論し、対立しました。

さらに、本部は「リニア建設を進めるなら、減額は絶対認めない。厳しいならリニア建設を止めるべきだ」と主張しました。

**JR東海労はコロナ禍を理由に労働者へ
我慢と犠牲を強いる会社を許しません！**